

## 2020年市民社会川柳ベスト10

NPO法人市民社会研究所のホームページ上に掲載している「市民社会川柳」の中から、  
役員・会員・職員の投票により本年のベスト10を選びました。(番号は、ホームページ上の作品番号)

第1位 1年間「コロナのせいで」と言い続け 作 松井真理子 (122)

イベント中止、会議はリモート、宴会は自粛。そんな1年でした。

第2位 マスクして目だけ化粧の安上り 作 松井真理子 (90)

眉と目以外は省略。ファンデーションも半分以下で済みます。

第3位 ウィルスは差別主義者を差別せず 作 坂東 行和 (109)

トランプ大統領が選挙戦の最中コロナに感染。

第4位 安倍首相アベノマスクで名を残し 作 松井真理子 (59)

「アベノマスク小顔判定に使われる」という句もありました。

第5位 本当の緊急事態はわが家計 作 坂東 行和 (44)

コロナ禍に乗じて「憲法への緊急事態条項の創設」の議論が持ち上がりました。

第6位 支持率にあせりガースーと言ってみる 作 松井真理子 (133)

支持率が軒並みダウンの中、「こんにちはガースーです」の自己紹介に失笑。

第7位 欲しい声拾い集めて「街の声」 作 坂東 行和 (86)

何かあるとテレビ局は「街の声」を流すが、局の思惑どおりに編集していないか？

第8位 嘘ついて上は出世し下は死ぬ 作 松井真理子 (33)

森友事件の「昭恵案件」。文書改竄で自殺した人、国税庁長官になった人。

第9位 思い切りくしゃみができる一人者 作 吉武三和子 (128)

マスクをしていてもくしゃみもはばかられる空気。独り者は家の中なら好き放題。

第10位 採火したがたどりつけるか聖火台 作 松井真理子 (29)

3月12日、ギリシャで東京五輪の採火式。その後1年延期され、さて・・・。